

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有  
〒207-0015  
東京都東大和中央 1-539-15  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

# 東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2022年(令和4年)3月16日 水曜日

無料

## 第118号

毎月発行

発行 2022年(令和4年)3月16日 水曜日

【当新聞発行責任者  
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、68歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の大崎上映会は延期。新型コロナウイルス禍を乗り越えて4作目制作に向けて歴史・縄文文化研究を掘り起こすことを標榜。



## 《東北脱原発・新エネルギー開発は東北再興に寄与する新国土防衛産業になる》 ウクライナから学ぶ東北再興の電力産業施策

世界の激変で東北復興枠組も変化不可避  
東日本大震災発生からこの三月十一日で満十一年である。他のマスメディアは「特集」を組んで報道するが、大震災発生以来の例年のイベントをこなすかのよう、あまり心がこもっていないように感じられない。そんなことで当新聞の三月号では、当新聞しか書かない、当新聞なりの満一年の記事を送りたい。

こうした大変化と東北復興の枠組などが直接関係してくると考える人は少ないかもしれないが、この変化を突き詰めて考えれば考えるほど、東北は真剣にこの状況に対応しなければならぬと当新聞は主張したい。

とか、あのチェルノブイリ原発の使用済核燃料冷却水の電源まで切ってしまうとか、「狂人」としか思えない行為に及んでいる。これらの行為で、ウクライナだけでなく、ヨーロッパ全域、ユーラシア大陸、果ては世界までを核爆発の危険に晒すという暴挙を、現実に見せられてしまった。ここから、十一年前に福島第一原発の水素爆発とそれ以降の放射能汚染を経験した東北は何を学び、どう行動すべきだろうか。

ロシアは、ウクライナの予想以上の反撃にあわてふためいたのか、核兵器使用を匂わせるに至った。それは、おのれから仕掛けた戦争がうまくいかないからと、相手の戦意を喪失させるための単なる脅しだと思いたかった。核兵器は使用してはならない、絶対に踏み込んでほならないタブーというのが最低限の戦術ルールだと思っていた。しかし、実際にウクライナ国内の原発拠点に攻撃まで行い、火災を発生させた

原爆は最大の攻撃目標になる  
日本は、広島と長崎で核爆弾を投下され、たくさんの犠牲者を出した唯一の国である。このことをあらためて痛切に思い起こさせたロシアの原発攻撃だった。

### 2章

#### 日本の原子力施設の状況

日本には33基の商業用原子力発電所があり、9基が運転中です(2020年11月6日現在)。  
また、原子力関連施設は、新規基準の審査を通過した四つの施設が運転中です(2020年10月29日現在)。

(2020年11月6日現在)

地図番号	会社名	発電所名	炉型	許可出力(万kW)	新規基準の適合性に係る審査			運転年数
					審査状況	設置許可日	稼働開始日	
既設	① 北海道電力(株)	迫(1号)	PWR	57.9	審査中		31	
		迫(2号)	"	57.9	審査中		29	
		迫(3号)	"	91.2	審査中		10	
	③ 東北電力(株)	東通原子力(1号)	BWR	110.0	審査中		14	
		女川原子力(2号)	"	82.5	終了	2020.2.26	25	
	⑦ 東京電力ホールディングス(株)	柏崎刈羽原子力(1号)	"	110.0	審査中		18	
		柏崎刈羽原子力(2号)	"	110.0	審査中		35	
		柏崎刈羽原子力(3号)	"	110.0	審査中		27	
		柏崎刈羽原子力(4号)	"	110.0	審査中		26	
		柏崎刈羽原子力(5号)	"	110.0	審査中		23	
		柏崎刈羽原子力(6号)	ABWR	135.6	審査中	2017.12.27	23	
		柏崎刈羽原子力(7号)	"	135.6	審査中	2017.12.27	23	
	⑧ 北陸電力(株)	志賀原子力(1号)	BWR	54.0	審査中		27	
		志賀原子力(2号)	ABWR	120.6	審査中		14	
	⑨ 日本原子力発電(株)	東海第二	BWR	110.0	終了	2018.9.26	41 <sup>*)</sup>	
		敦賀(2号)	PWR	116.0	審査中		33	
	⑩ 中部電力(株)	浜岡原子力(3号)	BWR	110.0	審査中		33	
		浜岡原子力(4号)	"	113.7	審査中		27	
⑫ 関西電力(株)	美浜(3号)	PWR	82.6	終了	2016.10.5	43 <sup>*)</sup>		
	大飯(3号)	"	118.0	終了	2017.5.24	28		
	大飯(4号)	"	118.0	終了	2017.5.24	27		
	高浜(1号)	"	82.6	終了	2016.4.20	45 <sup>*)</sup>		
⑭ 中国電力(株)	高浜(2号)	"	82.6	終了	2016.4.20	44 <sup>*)</sup>		
	高浜(3号)	"	82.0	終了	2015.2.12	35		
⑮ 四国電力(株)	島根原子力(2号)	BWR	82.0	審査中		31		
	伊方(3号)	PWR	89.0	終了	2015.7.15	25		
⑯ 九州電力(株)	玄海原子力(3号)	"	118.0	終了	2017.1.18	26		
	玄海原子力(4号)	"	118.0	終了	2017.1.18	23		
⑰ 九州電力(株)	川内原子力(1号)	"	89.0	終了	2014.9.10	36		
	川内原子力(2号)	"	89.0	終了	2014.9.10	34		
計			33基	330.8	2.5	1.6	9	

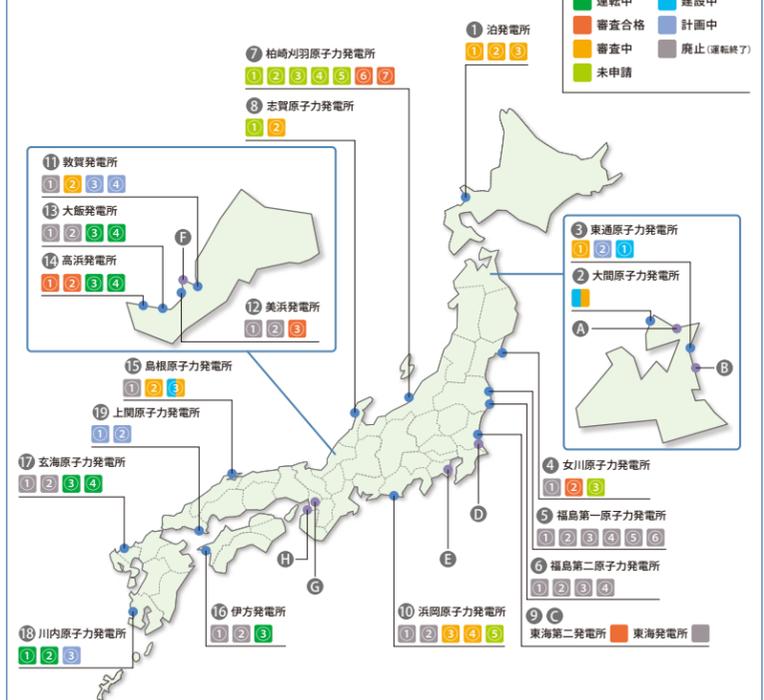
※新規基準でのAMOX許可取得  
① 2018.11.7に運転開始。安全対策工事は、2022年12月完了予定。  
② 2016.11.16に運転開始。安全対策工事は、2020年9月16日完了。  
③ 2016.6.20に運転開始。安全対策工事は、2020年9月16日完了。  
④ 2016.6.20に運転開始。安全対策工事は、2020年9月16日完了。  
⑤ 2016.6.20に運転開始。安全対策工事は、2020年9月16日完了。

地図番号	会社名	施設名	炉型	新基準手続(設置許可・審査許可)	備考
A	リサイクル燃料貯蔵(株)	リサイクル燃料貯蔵センター(建設中)	建設中	2014.1.15	2020.9.2
		再処理工場(建設中)	建設中	2014.1.7	2020.5.13
		ウラン濃縮工場	建設中	2013.5.14	2017.4.19
		MOX燃料工場(建設中)	建設中	2014.1.7	2020.10.7
B	日本原燃(株)	高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2014.1.7	2020.7.29
		高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2018.8.1	2020.8.26
C	日本原子力発電(株)	東海第二原子力発電所	運転中	2015.7.16	2018.11.7
		研究用原子炉JRR-3	運転中	2014.9.26	2018.11.7
D	日本原子力研究開発機構	原子炉安全研究炉NSRR	運転中	2015.3.31	2017.12.6
		原子炉安全研究炉STACY	運転中	2015.3.31	2017.11.8
E	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2015.2.6	2018.9.5
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.2.14	2017.11.15
F	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
G	近畿大学	原子炉	運転中	2013.3.27	2017.3.30
		原子炉	運転中	2017.3.30	2017.3.30
H	京都大学	KUR(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.10.20	2016.4.13
		KUCA(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.4.18	2017.2.28

地図番号	会社名	施設名	炉型	新基準手続(設置許可・審査許可)	備考
A	リサイクル燃料貯蔵(株)	リサイクル燃料貯蔵センター(建設中)	建設中	2014.1.15	2020.9.2
		再処理工場(建設中)	建設中	2014.1.7	2020.5.13
B	日本原燃(株)	高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2014.1.7	2020.7.29
		高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2018.8.1	2020.8.26
C	日本原子力発電(株)	東海第二原子力発電所	運転中	2015.7.16	2018.11.7
		研究用原子炉JRR-3	運転中	2014.9.26	2018.11.7
D	日本原子力研究開発機構	原子炉安全研究炉NSRR	運転中	2015.3.31	2017.12.6
		原子炉安全研究炉STACY	運転中	2015.3.31	2017.11.8
E	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2015.2.6	2018.9.5
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.2.14	2017.11.15
F	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
G	近畿大学	原子炉	運転中	2013.3.27	2017.3.30
		原子炉	運転中	2017.3.30	2017.3.30
H	京都大学	KUR(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.10.20	2016.4.13
		KUCA(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.4.18	2017.2.28

①注)BWR:沸騰水型軽水炉、PWR:加圧水型軽水炉、ABWR:改良型沸騰水型軽水炉、APWR:改良型加圧水型軽水炉、GCR:ガス炉  
出典:(一社)日本原子力産業協会資料より作成

#### 日本の原子力施設(2020年11月6日現在)



#### 商業用原子力発電所以外の主な原子力関連施設(2020年10月29日現在)

地図番号	会社名	施設名	炉型	新基準手続(設置許可・審査許可)	備考
A	リサイクル燃料貯蔵(株)	リサイクル燃料貯蔵センター(建設中)	建設中	2014.1.15	2020.9.2
		再処理工場(建設中)	建設中	2014.1.7	2020.5.13
		ウラン濃縮工場	建設中	2013.5.14	2017.4.19
		MOX燃料工場(建設中)	建設中	2014.1.7	2020.10.7
B	日本原燃(株)	高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2014.1.7	2020.7.29
		高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	建設中	2018.8.1	2020.8.26
C	日本原子力発電(株)	東海第二原子力発電所	運転中	2015.7.16	2018.11.7
		研究用原子炉JRR-3	運転中	2014.9.26	2018.11.7
D	日本原子力研究開発機構	原子炉安全研究炉NSRR	運転中	2015.3.31	2017.12.6
		原子炉安全研究炉STACY	運転中	2015.3.31	2017.11.8
E	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2015.2.6	2018.9.5
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.2.14	2017.11.15
F	日本原子力研究開発機構	商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
		商業用原子炉JRR-3	運転中	2014.11.26	2017.11.1
G	近畿大学	原子炉	運転中	2013.3.27	2017.3.30
		原子炉	運転中	2017.3.30	2017.3.30
H	京都大学	KUR(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.10.20	2016.4.13
		KUCA(京都大学研究用原子炉)	運転中	2014.4.18	2017.2.28

一般財団法人【日本原子力文化財団】の「2章 原子力開発と発電への利用 日本の原子力施設の状況」より



福島第一原発の水素爆発…福島中央テレビ/日本テレビ

そして、十一年前、東日本大震災による大津波により核燃料冷却装置が破壊された福島第一原発が、水素爆発を起こし、それにより甚大な放射能汚染も経験した。それはいまも続いているし、これから何十年も続く。

原発は最大の攻撃目標となり、最大の物理的被害を与えることができるし、その上、計り知れない精神的ショックも与えて、二度と再起出来ない大打撃を与えられと学んだとは言えないか？

「(略) ウクライナ情勢の悪化に伴い、天然ガスや原油の供給不安、価格高騰が長期化する懸念が広がり、与野党から「原発再稼働」を求める声が高まっているのだ。ウクライナではロシア軍が原発関連施設への攻撃を繰り返して、世界を震撼させている。目を向けるべきは原発保有のリスクの方だ。」

「(略) 自民党の「電力安定供給推進議連」は10日、停止中の原発の速やかな再稼働を求める決議を採択。日本維新の会や国民民主党も再稼働を訴えている。萩生田経産相も11日、「国も前面に立ち、粘り強く取り組む」と前のめり。(略) 財界寄りの連中はここぞとばかりに、動きを強めているが、原発を保有するリスクとその恐ろしさに直面しているのがウクライナだ。」

「(略) 元原子力プラント設計技術者の後藤政志氏(工学博士)はこう言う。「核兵器による攻撃よりも、相手国の原発に対して通常兵器で攻撃する方が、ケタ違いのダメージを与えられます。恐ろしいことに、ロシア軍はそれを実践しているのです。また、原発事故と武力攻撃は質が違います。事故の場合は、内部からジワジワと壊れていきますが、武力攻撃では格納容器や原子炉をピンポイントで狙える。いきなり、放射性物質が拡散する危険があるのです。」

「(略) 外務省から委託された日本国際問題研究所が1984年2月に「原子炉施設に対する攻撃の影響に関する一考察」と題した報告書をまとめている。報告書にはこうある。へ主要電源施設を攻撃し破壊することとは、その国の総合戦力を低下せしめる観点から十分予想される。単に発電能力阻止が目的ではなく、炉内の大量の放射性物質の放散による効果を狙ったもの。被害の試算は衝撃的だ。原発への軍事攻撃により、シナリオI「補助電源喪失」、II「格納容器破壊」、III「原子炉の直接破壊」を想定。最も大きな被害が生じるのはIIIだが、分析が困難なため、IIの場合の被害を推定している。緊急避難しなければ、被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人になる。農作物などの土地利用や居住が長期間禁止されるのは最大54マイル(約87キロ)に及ぶ。」

「(略) 日本には33基の商業用原子力発電所があり、9基が運転中である。(2020年11月6日現在) 前述の「被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人」は原発一基の計算だろうから、この33倍の直接的な被害が想定できるが、計算するのも恐ろしい。そのリスクを承知で、原発再稼働に踏み切ろうというのは、暴挙中の暴挙であり、子々孫々に背負えないほどのリスクを残すということではないのか。それを財界、与野党政治家がやろうとしていることを広く知らせることが絶対に必要であり、止めさせることだ。」

「(略) 日本には33基の商業用原子力発電所があり、9基が運転中である。(2020年11月6日現在) 前述の「被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人」は原発一基の計算だろうから、この33倍の直接的な被害が想定できるが、計算するのも恐ろしい。そのリスクを承知で、原発再稼働に踏み切ろうというのは、暴挙中の暴挙であり、子々孫々に背負えないほどのリスクを残すということではないのか。それを財界、与野党政治家がやろうとしていることを広く知らせることが絶対に必要であり、止めさせることだ。」

「(略) 日本には33基の商業用原子力発電所があり、9基が運転中である。(2020年11月6日現在) 前述の「被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人」は原発一基の計算だろうから、この33倍の直接的な被害が想定できるが、計算するのも恐ろしい。そのリスクを承知で、原発再稼働に踏み切ろうというのは、暴挙中の暴挙であり、子々孫々に背負えないほどのリスクを残すということではないのか。それを財界、与野党政治家がやろうとしていることを広く知らせることが絶対に必要であり、止めさせることだ。」

「(略) 外務省から委託された日本国際問題研究所が1984年2月に「原子炉施設に対する攻撃の影響に関する一考察」と題した報告書をまとめている。報告書にはこうある。へ主要電源施設を攻撃し破壊することとは、その国の総合戦力を低下せしめる観点から十分予想される。単に発電能力阻止が目的ではなく、炉内の大量の放射性物質の放散による効果を狙ったもの。被害の試算は衝撃的だ。原発への軍事攻撃により、シナリオI「補助電源喪失」、II「格納容器破壊」、III「原子炉の直接破壊」を想定。最も大きな被害が生じるのはIIIだが、分析が困難なため、IIの場合の被害を推定している。緊急避難しなければ、被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人になる。農作物などの土地利用や居住が長期間禁止されるのは最大54マイル(約87キロ)に及ぶ。」

「(略) 元原子力プラント設計技術者の後藤政志氏(工学博士)はこう言う。「核兵器による攻撃よりも、相手国の原発に対して通常兵器で攻撃する方が、ケタ違いのダメージを与えられます。恐ろしいことに、ロシア軍はそれを実践しているのです。また、原発事故と武力攻撃は質が違います。事故の場合は、内部からジワジワと壊れていきますが、武力攻撃では格納容器や原子炉をピンポイントで狙える。いきなり、放射性物質が拡散する危険があるのです。」

「(略) 日本には33基の商業用原子力発電所があり、9基が運転中である。(2020年11月6日現在) 前述の「被曝後2カ月以内の急性死亡は最大1万8000人、急性障害は最大4万1000人」は原発一基の計算だろうから、この33倍の直接的な被害が想定できるが、計算するのも恐ろしい。そのリスクを承知で、原発再稼働に踏み切ろうというのは、暴挙中の暴挙であり、子々孫々に背負えないほどのリスクを残すということではないのか。それを財界、与野党政治家がやろうとしていることを広く知らせることが絶対に必要であり、止めさせることだ。」

福島中央テレビ/日本テレビ  
※動画配信をしております



**第91回**

**水産業再興のための  
料理レシピ紹介**

**《マグロとタイの  
ごまだれサラダ》**



郷土料理愛好家  
松本由美子氏

**材料：** 刺身(マグロの赤身、タイ) 150g、カット野菜(市販一人参、キャベツ、パプリカ等)、ポン酢しょうゆ 大1、すり白ゴマ 大1、おろし生姜(チューブ)少量

**料理方法：** ① カット野菜は、ふんわりラップをかけて電子レンジで1分。水気を切る。  
② 刺身を盛り、混ぜたポン酢しょうゆと白ゴマをかける。

\*スーパーでみかけるカット野菜と刺身の盛り合わせを利用しています。刺身は好みのものでOK。ポン酢ごまと野菜もよく合い食べやすいと思います。(松本談)

## 日本酒をよりおいしくいただくための豆知識 日本酒の温度区分

### 温度で激変する日本酒の味わい

《三陸酒海鮮会開催につきましては、コロナ感染状況が落ち着き次第、再度ご案内いたします。よろしく願いいたします。》

飛切燗	熱燗/ 上燗	ぬる燗	人肌燗/ 日向燗	常温/ 涼冷え	花冷え/ 雪冷え
5.5℃以上	5.0℃～ 4.5℃	4.0℃	3.5℃～ 3.0℃	2.0℃～ 1.5℃	1.0℃～ 5℃
吟醸酒 ×	吟醸酒 ×	吟醸酒 △	吟醸酒 △	吟醸酒 ○	吟醸酒 ◎
純米酒 ○	純米酒 ○△	純米酒 ◎○	純米酒 ◎○	純米酒 ○	純米酒 △
本醸造酒 ○	本醸造酒 ◎	本醸造酒 ◎	本醸造酒 ○	本醸造酒 ◎	本醸造酒 ○

# 11011年の1日

あれから一年である。一回目の三月一日も例年通り午後休みを取って若林区役所から荒浜まで、あの日弟が通ったであろう道を通ってみた。

今年の三月一日はあの日と同じ金曜日である。金曜日はいつもお昼にカレーを食べることにしているの

で、いつもの「ぐくま食堂」でいつも通りカレーをお腹いっぱいいただいた。いつものように「また来ます」って言うてお店を出たが、「また来れるかどうかかなんて、本当は確かでないよな」、などと考えるのも今日ならではないことである。

毎年、若林区役所の入口を入ってすぐのところに献花場が設けられてきたが、一〇年が過ぎたからなのか今年には近くの若林区文化センターの一階に献花場が設けられた。一〇年過ぎたと言え、今年には追悼式典を取りやめる自治体もだいぶあったが、仙台市では昨年

同様、この若林区文化センターの二階を会場に追悼式が開催された。ただし、新型コロナウイルスの感染が続いていることから、式辞などは行わず、招待者が献花するのみ形となった。

つまり、招待状を持っていない人は一階で献花、招待状を持っていない人は二階で献花、ということ、どちらもやることが変わらないなら一緒にすればいいのでは、とも思ったが、これはこれで混雑を避ける意味合いもあったのかもしれない。招待状を持っていない私は一階で献花した。

若林区役所が建っているところはかつて移転した養種園(現・仙台市農業園芸センター)があったところで、区役所の南側は公園として整備されているが、その一角には区役所の有志の方々がつくってくれた「三・一一不忘れの碑」がある。今日はたくさんのお花が供えられてあつた。

**執筆者紹介**  
大友浩平  
(おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
<http://blog.livedoor.jp/anagnasi/>



Facebook  
<https://www.facebook.com/kouhei.ootomo>

献花場が区役所の外に移ったので、区役所に入っても今日が東日本大震災発災の日ということを思わせるものは一見何もない。ただ、四階に上がると、あまり目立たない「追悼(献花)会場」がある。ここは若林区役所で震災の折に亡くなった弟ともう一人の職員のための献花場である。今年も設けてもらったのはありがたいことである。

外に出ると、一台の公用車が区役所を出ていくところだった。あの日、弟もこうして出ていったのかと思いを馳せた。

区役所を出て、一路荒浜に向かった。毎年、冷たい西風が吹き付けるのが常だったのだが、今年は東風だった。冬の風ではなく、春の風である。そう言えば、いつもより少し暖かい気がした。

のどかである。何事もなかったようである。いや、あの日だって、一四時四六分までは何の変哲もない一日だったのである。何気ない日常なんて、あつという間にも吹き飛ばしてしまうことがある、それをいやと言うほど思い知らされたのがあの日だった。

元あつた場所から二キロほど内陸に移転して再建した、荒浜地区唯一のお寺である浄土寺では、今年も慰霊法要が行われるようであった。元の名所にあつた弟の名前も刻まれている慰霊碑も、こちらに移されている。

て、その慰霊碑の前で慰霊法要が行われるようであったが、開始が一四時三〇分のことだったので、参加すると地震発生の一四時四六分をこえて迎えることになる。地震発生の時刻は海岸で迎えたかったのに、少し離れたところから慰霊碑に手を合わせて浄土寺を出た。

昨年完成した震災遺構荒浜小学校の南側の「避難の丘」の周辺もだいぶ整備され、にぎわいの拠点となる「JRフルーツパーク仙台

あらはま」もオープンした。震災によって荒浜地区は災害危険区域に指定され、基本的に人は住めなくなったが、違う形で人が集う場所になるべく、様々な土地利用が検討され、少しずつ実行に移されている。

荒浜には仙台市で唯一の海水浴場である深沼海水浴場があったが、一一年経った今も再開されていない。この深沼海水浴場の近くに荒浜慈聖聖観音には焼香場が設けられ、たくさんの方が訪れていた。たぶん、この地で大切な人を亡くした人たちのだろう。

防潮堤の上でみる。ここにもたくさんの方がいる。防潮堤から眺める海は波静かである。一四時四六分、海に向かって手を合わせた。防潮堤は震災後かさ上げされて高くなったと言え、高さ七・二メートルである。あの日ここを襲った津波は

高さ一〇メートルを超えていたので、あの日と同じ津波が来たらこの防潮堤はやすやす乗り越えられる。絶えず逃げる意識を持っておかないといけない。

あの日津波で、沿岸の松林の松はほとんどが倒されてしまった。しかし、その後植樹された松はすくすくと育っている。場所によっては既に人の背丈よりも高く伸びている。わずかに残った松と並ぶようになるにはあとどれくらいの年月が必要なのだろう。

震災遺構荒浜小学校は、見渡す限りの平地であるこの地域で唯一、あの日地域の人が津波から逃れた場所だった。その周辺では今年も、「HOPE FOR Project」の人たちが今年も、一四時四六分が今年も、一四時四六分が過ぎて海岸から帰途に就く人に風船を配っていた。荒浜小学校やその近くの七郷小学校の卒業生が中心となつて立ち上がった団体で、震災発生の翌年から毎年この日にはここでこの風船リリースなど、様々な企画を行っている。

一五時一五分に今年もたくさんの風船が空に舞い上がった。

この地に津波が押し寄せたのは一五時五四分。その時刻に合わせて、弟が見つけた南長沼でまた手を合わせた。北に帰る前の白鳥が羽を休めていた。その後は、再び若林区役

所へ。あの日、弟が辿れなかった道である。仙台市ではその後、津波避難の呼び掛けにドローンを導入することとなり、準備が進められてきた。津波警報が発令されると、スピカーを搭載したドローンが飛び立ち、あらかじめ定められたルートで人の手を介さず自動運行して避難呼び掛けを行うというものである。世界初の取り組みと

ことである。これであの日のような津波が来てももう、弟のような殉職者を出さないで済むことになる。

ただ、それだけでその時の場に居る人が避難してくれる保証はない。津波の危険が少しでもある時はすぐ逃げろという意識を常に持つていられるための取り組みも併せて続けていくことが必要である。

家に帰る途中、ケーキを買った。今日生きていることのお祝いである。お祝いと言うと私の中ではホルルのデコレーションケーキ一択なのだが、たいていホルルケーキは要予約で、突然行っても買えない。ただ、長町駅近くの「菓子工房セブレ」では様々なホルルケーキが予約なしでも買えるのでありがたい。イメージ通りのデコレーションケーキをゲットできた。メッセージを入れてくれるというのであったので、「今日生きておめでとう」と書いてもらった。

その後は、再び若林区役

家に帰ってからの、今日は「東北魂ビール」を開栓した。東北のビール醸造所の心意気が生んだビールである。

あの日受けた支援に対して美味いビールを造って恩返ししよう、一緒に研鑽してもっと美味しいビールを造って自分たちの地域を盛り上げていこうと二〇一三年に岩手・一関市の秋田あくらビール、福島市のみちのく福島路ビールの三社が集まって共同でビールを醸造したのを皮切りに、これまでに一五回様々なビールを造ってきた。参加醸造所数も年々増えてきたが、ここ二年はコロナ禍のため、関係者が一堂に会して一緒にビールを造るということができず、共通のレシピでそれぞれの醸造所で同じビールを造ったり、あるお題が出されてそれに合うビールを造ったりしていた。

今年には九社が参加し、今年のお題「東北産イブキホップとネルソンソープンを使用してラガーもしくはケルシュ」に沿ったビールが八種出揃った。こうして東北の美味しいビールを今年も飲めることはありがたい限りである。

ツマミは今年も小さい頃弟とよく一緒に食べたホテイのやきとり缶である。ホテイは静岡の会社だが、このやきとり缶は宮城の気仙沼で作られている。

あれから一年である。

このところ「風化」ということが言われるようになってきた。私としては風化している実感はまだないが、心配なのは次の世代への伝達である。あの時生まれたばかりだった子が今は一歳というところである。この先どんなあの日を知らない世代が増えていく。

そうした震災を知らない世代に、私たちが遭遇したあの過酷な体験をいかに当事者意識を持ってもらえるように伝えていくかが、私たちに課せられた大きな課題である。それが十分伝えられなかった時に、震災は風化していくのだろう。そうならないように、私はこれからは折に触れて震災の話をしつかり書いて話したりしていこうと思う。

その意味では仙台市が主催している「仙台防災未来フォーラム」はとてもよい取り組みであると思う。震災後に始まって今回で八回目。毎年足を運んでいるが、防災について改めて考えるいい機会となっている。子どもたち向けにステージショーなどを通じて楽しく防災を学べる企画も多く、有意義である。

私にとって今回は、東北大学災害科学国際研究所の東日本大震災メモリアルシンポジウム「海溝型地震研究の発展と将来への備え」の中の松澤暢氏の基調講演が参考になった。以下のような話があった。

・余震活動は継続しており

数十年に亘って続く可能性がある。その中ではまだ起きていない最大M8クラスの余震が起ころうもおおしくない。

・今回の震源域に隣接する北、東、南の領域で今後大きな地震が起ころう可能性がある。

・次の宮城県沖地震の発生が早まり、前の地震から二〇年以内で起ころう確率が六〇パーセントというシミュレーション結果もある。

・震災後始まった東北の太平洋沿岸地域の隆起は今後少なくとも一〇〇年は続くと見ている。

もし次の宮城県沖地震が前の地震から20年以内に来るのだとすると、あれから一一年経つてるのであと九年以内に起ころうかもしれない、ということである。余震でM8という、とても余震などと言えないような規模の地震が起ころうかもしれないということもある。風化などと言っている暇はない。一一年前のあの地震を既に終わった過去のものと捉えてはならず、またあの地震が遠ざかるほど、次の地震が近づいてきているものと考えて、ゆめゆめ油断してはならないのである。

# 地球温暖化と日本ジブシー化が 変えるかも知れない東北の事

東北の、長い冬が続いている。確かに、暦では三月となり、SNS上では既に海を見にツーリング行ったとか、キャンプしたとかの写真を載せる若い人たちの姿があるが、それらはほぼ西日本やせいぜい東海地方の事で、ここ東北や北海道では三月はまだ春が少し混じってくる程度のれつきとした冬の続きであるし、四月だってまだまだ寒く、完全に春だと言えるには、正直五月まで待たねばならない。さてそのような訳で延べ半年近くに渡る当地の寒冷期においてプロパンガス使用者にはガス代の跳ね上がり辛いところである。一方で夏はというと、実



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始める東北好きである。

我が家にはエアコンが無い、扇風機だけで何とか凌いできたのだが、その為夏は電気代もかからず済んできた。関東以西では扇風機のみならずエアコンはあり得ないだろうし、近年は例え北国東北といえどもエアコンが常識化しつつあるが、仙台ではまだ工夫次第で扇風機のみでも快適な夏を過ごせる余地があり家にエアコンは無い、という人も少なからずいるのである。しかしこうして見ると、日本は四季があつて良い、などと言うけれども、その実は冬の寒さからも夏の暑さからも極力逃げようとして、世界でも有数のエネルギー過剰消費大国となつてしまひ久しいのではないかと思われるのである。現在の先進国と呼ばれる国々での生活水準を、今に生きる全人類が享受するとすれば地球があと三、四個必要だとも言われている事を鑑みれば、日本人の現状のエネルギー消費スタイルは世界基準とも、未来モデルとも到底言い難いものと言わざるを得ないかも知れない。

本稿では、そのような世界的課題に向け近未来的イメージを展開させながら、最終的には筆者最大の関心事である東北の未来像へと論点を集約させ得るのか考察を進めてみようと思う。

問題の地球温暖化自体がもはや止められぬ段階に來たとも言われている事は既に書くまでもないだろう。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の「第5次評価報告書」をもとにしたシミュレーションによると、西暦二〇〇年には東京は日中四〇度越えが常態化し、熱中症による死者は二十一世紀初頭の五倍に達する、という(むしろもっと早くそうなっているような気もするが・・)。

関東以南では冬でも気温が十五度を下回らず、熱帯性の蚊などの害虫が繁殖、 Dengue熱やマラリアが蔓延する、と予測されている。

また海面水位は少なくとも一メートル前後上昇しており、頻繁に発生する巨大台風はしばしば東京をも直撃して江東区・墨田区そして千代田区を水没させる。

夏の酷暑・冬の極寒のみならず洪水と渇水が隣り合わせに起きる「気象の極端現象」は常態化し、かつて数十年に一度だった自然災害を毎年のように経験する事になるのだ(というか、既にそうなつてきているようにも思えるのだが・・)無論、避けられぬからと

いつて、何も対策を取らぬ訳にはいくまいが、巷によく言われる温室効果ガス排出量の大幅削減の為のエネルギー・シフト、太陽光・風力・地熱発電、電気自動車、水素燃料などの開発と普及、個人レベルでは地産地消、フードロスなど考えられる事は多くある。だが一つ拙稿からの重要な提案として、熱帯性の害虫や感染症に見舞われる西日本、そして災害により水没の危機に常時曝される東京・関東からの避難経路として、東北や北海道が準備しておかねばならぬ事があるのではないかと申し上げておきたいところなのである。

そんな事を言つて、さては近年これも盛んに叫ばれるようになった、若者の流出が止まらず急激な人口減少に更に拍車のかかつていっている東北への流れをどうな形でも呼び込もうという必死の魂胆だ？と見る向きもあるが、実のところそうした下心もない訳ではない。しかし、正直な話、魅力のない土地から若者が離れていくのは当然であり、いつその事この期に及んで本気の改革の兆しのない東北などからは、最終的に一度人間がすっかりいなくなつてしまえばいい、とすら考えるところもある。

むしろその先に、一体どんな風景がこの土地にあるのか、見てみたいものだと思ふのである。

しかしながらその前に、下心を込めてのせめてもの提案として、以前拙稿で言及した「旅学」を再び掲げてみたいのである。東北の旅行ガイドネタにおいて紹介した民俗学者・宮本常一が提唱したという「旅学」(むしろこの概念を多用し展開したのは赤坂憲雄のように思えるが)、所謂「観光学」とは対立する一方で「東北学」とはむしろ伴侶的な親近感を持ち、「観光学」のように「旅行」と日常を切り離す事なく、移動行為そのものを生活の一部とする云々が縄文的人生観に裏付けられた新たな学問であると書いたのだが、思い起こせば、かつて縄文時代、列島の人口は東北から関東甲信越にかけて集中しこれが後の気候変動によって西国へ移動していった経緯があつた。今また不可避の気候変動の時代が来て、頑なに定住生活に固執し、エネルギーを浪費し続ける道は果たして理に適っているのか？そう問いかけてみたいのである。

移動する人々、といえは無論人類の歴史そのものがアフリカ大陸からユーラシア、そしてアメリカ大陸まで長い年月をかけて移動していった事に始まり、長い歴史を通じて幾多の民族移動を繰り返してきた記録である事は、あたかもDNAに深く刻印されたプログラムであるかのようだが、一方で現在に至るまで遊牧民

族や所謂ジブシー(現在、これを差別的呼称として、民族の自称であるロマという呼び方が一般化しつつある)の存在もまた長く知られてきた。これは大陸特有の文化かと思つていたらそうでもなく、アイルランドにはアイリッシュ・トラベラーという広義的にジブシーに含まれる民族集団がある。

そうした少数民族単位ではなく、日本人の身体には縄文時代以来の住所を一箇所に定めない感覚が眠つていて、再びそれが目覚める時を待っているのではないかと・・と疑つてみたい。

ここで少し旅そのものの話になり恐縮だが、私自身が三十代前半の頃を中心に参入していたオートバイや自転車で長期の旅生活を送る人々の世界も、現実に日本列島、特に北海道や九州、沖縄に存在してきた。彼らの多くは一時の青春の思い出や精神の彷徨の為にそこにいたが、一生をそのような旅のサイクルの中で生きようと考へていた者もいなかつた訳ではない。かつてテントは貧乏旅行生活の為の「家」であつたが、現在のキャンプブームはむしろ、テントを贅品に変え、旅への憧れをより広い一般層の間に違和感のないものにまで引き上げた感がある。

つまり今まで確かに「定住者」側にいた人々をも惹きつけ始めたという事であ

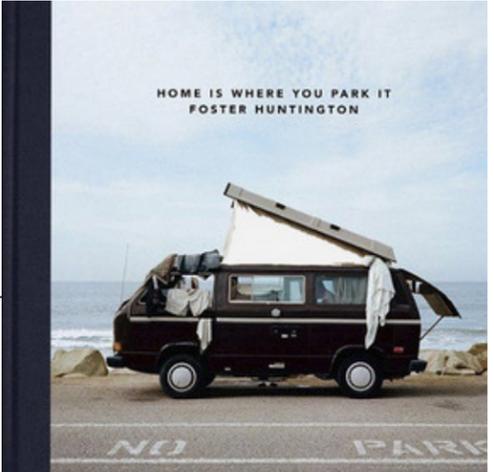
るが、その担い手は定年退職後の夫婦生活を楽しもうとするシニア世代のみならず、若い夫婦など新世代も少なくない。彼らはテントを設営・撤収する手間は取らずクルマを旅生活の拠点とするが、それがかつて長期旅行用のクルマとして認知された大型のキャンピングカーではなく、より日本人の感覚に合った軽トラックやバンを改装したものである。これは従来の一台のクルマに、キッチン、トイレや風呂に至るまで完備されたキャンピングカーとは違い、荷台に快適な休息・就寝設備のみを備え、食事は屋外キャンプか外食で、風呂は地域の銭湯施設で低コスト度と自由度を高めた新たな旅生活スタイルを提唱するものと言える(バンで旅生活する人々はバンライフアールと呼ばれる)。

これだけでも、従来のキャンピングカーでは敷居が高いと考へていた層の、単身者から二人連れにとつてはかなり気軽に踏み込める感があるだろう。無論、これだけでは飽くまで特殊な趣味の夫婦か、所謂テレワーク、どこにいても仕事ができる単身者向けの話と捉えられるだろうが、将来的・近未来的にはクルマでの移動生活以上に、少なくとも自然災害や虫害・感染症のリスクが高い夏期の関東以西から集団的に多くの世帯が移転・移住する一云わば「別荘制」が導入され、

それに伴ないテレワークの困難な企業を含め各職場ごと本店機能を各地の支店へ一時移転させ、季節により交替運営していく・・という社会循環全体を視野に入れた措置が必要になつてくるだろう、と思う。

とは言え、やはりこれは絵空事かも知れない。実際の東京は、かつての関東大震災どころか、今後必ず来ると言われる首都直下型地震に見舞われようとも即復興を遂げるであろうと目されており、例えば旧城下町部分の水没しようとして例えヒートアイランド現象が限界を迎えようと、「移転」はせいぜい武蔵野台地(新宿以西)に留め、若者を全国から吸い寄せる力が衰えぬ限り、首都機能も人・物・金も他所に譲り渡す事なく、世界のエネルギーを食い尽くし続けるのかも知れない。

結局、二〇〇〇年どころか三十年先の事すらもろくに予測できない事は、九〇年代初頭に現在のスマートフ



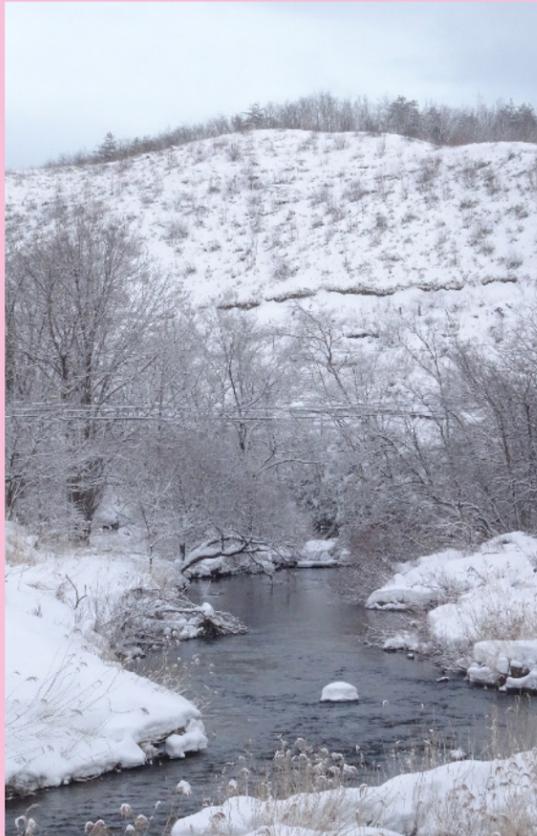
新たなライフスタイルと呼ばれる「バンライフ」その海外の写真集(秋田書店より)

オン普及、少子高齢化など誰も想像していなかつた事からも明らかだが、もしかすると、現在東北について懸念されている人口激減の問題すらも、結果的に的外れだった、という事になるような思いがけぬ解決が成されるのかも知れない—そんな風にも、思えるのである。

さて、結局冒頭の問い—世界中が平等に「総中流」となる時代は来るのか？やはりこれも、あまりにスケールの大きな話で、予測はつかない、としか言えない。しかし自らの足元より人間の生き様に疑問を持ち、小さな変革を起こすところから、目指すべき人類の「総中流」が一体どんな姿のものなのか、明らかにしていく事は可能ではないだろうか。その為にも東北人である私は「旅学」とともに日常を生き、そして新たな人間の生き方を探し求めて、いづれまた新たな旅に出る事だろう。



冬のフヨウ



厳寒の景



雪にナツズイセンの芽



雪と山の神

シリーズ  
遠野の自然  
「遠野の啓蟄」  
遠野 1000 景より

三月に入ってたまに気温が上昇するといよいよ春かと期待する。そう思ってた安心すると、また冬に逆戻りする。  
こうした三寒四温を繰り返していくうちに本格的な春を迎えることになるのだ



一皮むけたモクレン



冬のヤドリギ

が、まるで季節の移り変わりと駆け引きをしているように、ときにははじれたいとも思う。  
しかし、季節の移り変わりを静かに眺められるのも安定した日常があつてのことだ。

遠いウクライナでは季節を感じる余裕もないだろう。十一年前の東日本大震災発生直後の被災地もそんな余裕はなかった。みんな必死に耐えていたのだ。



苔の花



我家上空のゴイサギ

# シリーズ【東北の災害の歴史】 第8回

## 「少々ひねくれた列島の自然災害論」から引き出す災害回避策は、人口減少策しかないのか？人は災害リスクより孤立を恐れる生物か？

どうして急な坂道のあ  
る住宅地に住むのか？

災害ニュースに接するたび  
にとて不思議に思うことが  
ある。

その不思議なことのなかで  
も一番初めに思うのは、大雨  
災害ニュースで良く出くわす  
災害現場である急傾斜地にあ  
る住宅地である。

どうしてあんなに急坂がた  
くさんあるような場所に住む  
のだろうかということである。  
筆者は高所恐怖症なので、

高い場所はどうしても行か  
なくてはならない場合を除き、  
そうした場所は避ける。それ  
も、一定以上の高さは絶対回  
避する。ましてや、常時そこ  
で過ごすなど考えられない。

それはともかく、こうした  
急坂のある住宅地は、もとも  
と丘陵とまではいかないけれ  
ども小さな丘と、そこに至る  
場所を整理して造成されたも  
のであるが、冷静に考えれ  
ば、もともと災害リスクの大  
きな場所である。

大雨による水害も当然予想  
されるし、さらには高い場所  
の土砂による土砂崩れも十分  
に予想できる。

また住宅地そのものが流さ  
れてしまうリスクもある。  
それなのに、なぜそこに住  
もうとするのだろうか？

大河川そばの低地に暮  
らすのもなぜなのか？

次に思い浮かぶのは、大河  
川の堤防のすぐそばに住むこ  
との不思議さである。  
特に曲がりくねった大河川

は危ない。  
いくらコンクリートで強固  
な堤防を作っても、大雨で増  
水した河川の力は、そうした  
堤防を軽々と乗り越えていく  
であろうし、大水のパワーは  
そうした堤防などいとも簡単  
に破壊するさまをたびたび見  
せつけられてきた。

それは温暖化が叫ばれてい  
る現代だけでなく、つい数十  
年前にはよく見聞きしていた  
はずであるのに、そこに暮ら  
し続けるというのは不思議で  
ある。

山が背後に迫る狭い場  
所に住むのもどうか？

それから、海に近い場所だ  
が、背後に山が迫る狭い土地  
に住むのもどうなんだろう  
か？

山からは大水、土砂、海か  
らは津波が襲ってくるリスク  
だらけの土地に、漁業等の関  
連の臨時居住ならまだしも、  
常時暮らすのは平気なのだ  
ろうか？

自然災害ではなく人  
災では？

このように少々ひねくれた  
見方をしてみると、ここまで  
挙げた災害は、必ずしも純然  
たる自然災害とは言えないの  
ではないかと思えてくる。

まずは、そうした場所に、  
住んでも問題ないとの「お墨  
付き」を与えた行政。

その「お墨付き」を信じて  
住居を決めた住民の選択。あ  
るいは、多少は心配だったが、  
自分の生存中は災害には遭わ  
ないとの根拠のない自信から

の住民の選択。  
そして、最後に、天気予  
報や災害予報がタイムリー  
に出て来なかった状況があ  
り、そうした予報が出るも  
のを思い込んで、自らは避  
難の決断を下さなかった人  
任せの姿勢などなど。  
こうして並べてみると、  
やはり自然災害というより  
は、人災部分がより大きな  
比重を占めてくるように思  
えてくる。

どうして危険なところ  
に住みたがるのか？

しかし、それにしても、  
人はどうして危険なところ  
に住みたがるのだろうか？  
そうしたリスクある場所  
の住居が比較的安価だから  
であろうか？

安価である対価が、「自  
然災害リスク」で、万が一  
の場合は生命まで脅かすと  
は、割が合わないギャンブル  
のような気もするのであ  
らう。

大雨が降るたび、坂道の  
多い場所での水害、土砂崩  
れ、そして大河川の氾濫な  
ど、ニュースに事欠かない  
のに、そうした危険な場所  
を引きはらおうという動き  
はあまり見ることがない。

人口増が原因なの  
だろうか？

日本はもともと山間部が  
多く、平地は少ない場所  
である。その少ない平地で、  
災害リスクの小さな場所に  
はすでに人があふれていて、  
しかも競争率が高いから、

値段も高い。  
より安価な場所を求めて  
急坂がたくさんある場所に  
住んだり、大河川のすぐそ  
ばに住んだりするのであ  
らうか？

この説はもつともらしく  
聞こえるが、ひねくれた視  
点から見たら、単純にそう  
とは言えないのではないか  
とリスク小さいがさびし  
い場所に住みたがる

周囲には丘もないまっ平  
の土地、大河川もない場所  
なら、たとえさびれた場所  
だとしても、そこに人は住  
むだろうか？周囲に人もま  
ばらな土地に人は住むだ  
らうか？

そこにはなかなか住もう  
とは思わないだろう。  
やはり、人間は集まって  
住みたがる生物なのだ。  
孤立して生きるのはよほ  
どの変わり者とされるのが  
おちなのだ。

だから、ここから強引に  
結論を引き出すとすると、  
まず、人は集団で暮らした  
い、孤立しては暮らしたく  
ない、災害リスクよりも孤  
立するのが嫌なのだ。  
だから、傾斜地や大河川  
のそばに住むのだ。  
とはいえ、限度以上の人  
口増は、「安全地帯」から  
人々を徐々に危険地に追い  
やるのだから、やはり人口  
増加が「自然災害」の原因  
と決めつけてよいだ  
らうか？

### 日本の人口急増は明 治以降

人口増加が、いわゆる「自  
然災害」発生の原因、ある  
いは遠因というのであれば、  
少し長期的視野で日本の人  
口の推移を見てみよう。

下のグラフを見ればすぐ  
分かるように、人口が率と  
量からしても、急増したの  
は明治時代である。

理由として考え得ること  
は、明治の富国強兵策では  
ないか。

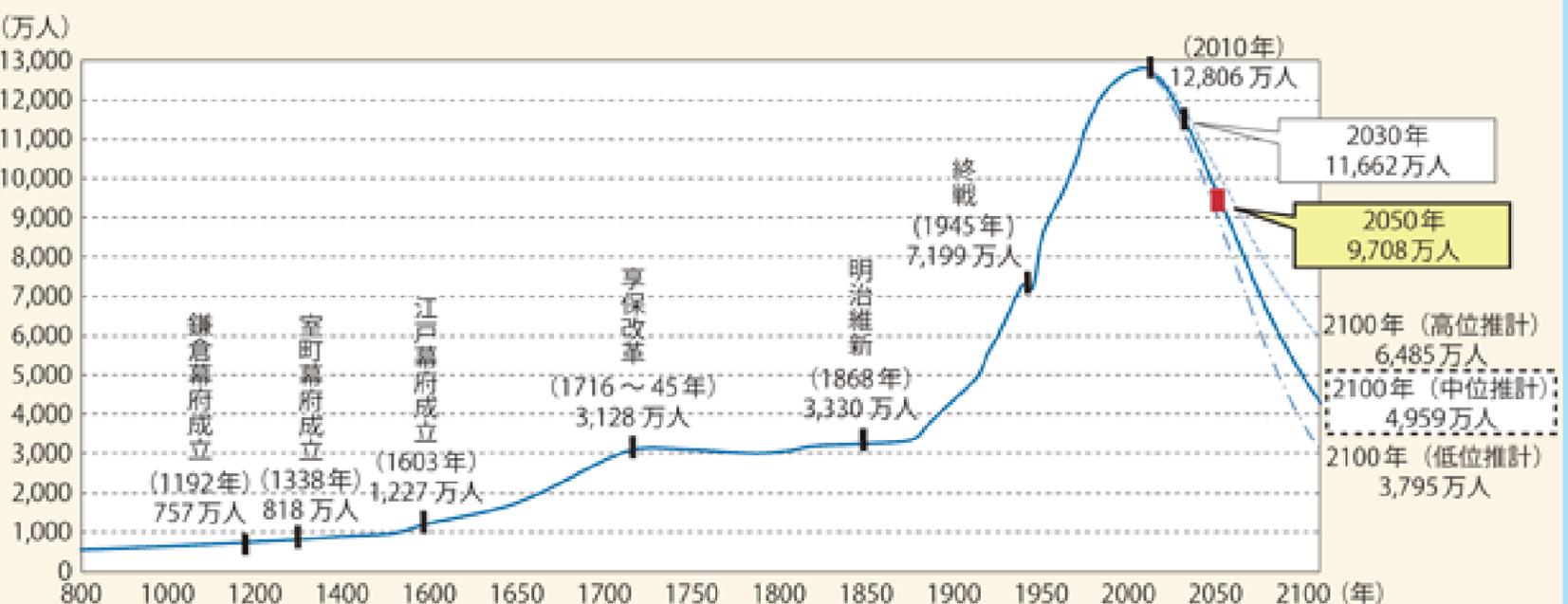
「産めよ、増やせよ」と  
の国の号令のもとで、国民  
全体が「人口増」に励んだ  
結果が、あのグラフの急上  
昇カーブであると推論でき  
る。

それにしても、すごい上  
昇カーブである。第二次世  
界大戦敗戦時点の人口まで  
二倍以上の増加であり、異  
常な増加である。

これが現在の「自然災  
害」ならぬ「人災」の遠因  
なのであるか？

さらに、これは「自然災  
害」だけでなく、さまざま  
な問題を産んだ、急激な人  
口増加なのである。

ならば、いつそのこと人  
口減少策に転じるというの  
も容易なことではない。



資料) 2010年以前は総務省「国勢調査」、同「平成22年国勢調査人口等基本集計」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」より国土交通省作成

日本の人口推移表 (国土交通省作成)・・・日本の人口急増は明治の富国強兵策が主たる原因か？

# 写真でお伝えする 東北の風景

## 【伝えなければならない大震災】

写真撮影 尾崎匠

